はOHP 原稿も準備していることと思うが、他にも対応策を考えていただけたら、と思う。

恩田能成

キヤノン㈱

今年の第 6 回大会は、エム・アール・システム研究所在籍時代から数え私自身連続 3 回目の参加となりました。ちょうど季節の変わり目の過ごしやすい好天の中、異国情緒残る美しい町並みも含め楽しく参加することができました。

続けて参加する中、年々充実する基礎系の発表を興味深く聞かせていただくとともに、今大会で特に感じたことは私どもを含め企業による発表が増えてきたなという印象でした。バーチャルリアリティに関するこれまでの研究成果が実り、様々な応用分野へと発展していく前触れかなという期待を感じることができた 3 日間でした。

回を重ねるごとに進化（エスカレート？）してゆく懇親会もまたこの大会の重要な楽しみの一つです。今年の懇親会場に入ったときに「人数の割に広いような気がするな」とは思いましたが、なるほどあのアトラクションにはスペースが必要です。この秘密のアトラクション、初体験の龍踊りの熱気には押されっぱなしでしたが、長崎の長い歴史を感じることが出来、幹事の皆様の熱意で楽しい時間を過ごすことが出来たと思います。ありがとうございました。

藤村誠

長崎大学

バーチャルリアリティ学会大会には今回初めて参加させていただきました。発表、展示とも充実しており有意義な 3 日間となりました。発表内容は興味深いものばかりであり大変勉強になりました。私は視覚系の発表に興味があったのですが、触覚、嗅覚、聴覚、応用、芸術など最先端の研究成果に触れることができました。また、普段は論文などで知ってはいても実際に触ったことがないものも、技術展示や作品展示で直接実物を見て、体験できてとても参考になりました。長崎では直接研究成果に触れる機会が少ないため、地域で産業に関わる方も刺激を受けられたのではないかと思います。個人的に印象に残ったのは、バーチャルリアリティの研究や開発には自由な発想と開発力の両者が重要であるということです。開発ペースが研究の成否にも影響するように感じました。いろいろな意味で得るものが大きい大会でした。

◆次回大会長より

佐藤誠

第 7 回大会長（東京工業大学）

懇親会の龍踊り、すばらしい迫力でした。

文化フォーラムも本当に楽しいひと時でした。それから、ペンギン水族館のペンギン達がとても可愛かった。豊かな歴史と文化に包まれた長崎での第 6 回大会も、数々の思い出を残してくれました。竹田先生をはじめ実行委員の皆様、本当にありがとうございました。

さて、東京代々木のオリンピック青少年センターにおいて、最初の大会が開かれたのは 1996 年の秋です。それから、全国各地で開催を重ねて、来年の第 7 回大会は、再び東京で開くことになりました。ちょうど振り出しに戻ることになります。その意味で、来年は学会発足当時の原点に立ち戻り、そして新たな飛躍の第一歩となるような大会にしたいと思っています。といっても具体的なプランはこれから練ることになります。楽しいアイデアや愉快な企画を募っています。

◆アンケート集計結果

金子照之

幹事（長崎総合科学大学）

会開催期間に参加者の皆様にアンケートへのご協力をお願い致しました。しかし、アンケート用紙の回収率が悪く、20 枚ほどしか集まりませんでした。そこでホームページからアンケートできるようにして、再度アンケートを募りまして、やっと合計 40 枚のアンケートが集まりました。昨年の 72 枚の約半分と少ないので、統計的に何を言えるか疑問ですが、平均顔のようにサンプル数が少なくても、なんとなく雰囲気が出ていることを期待してみましょう。

回答者は「会員（おそらく学生）、VR 大会に初参加」が多かった。参加回数が増すにつれて、好印象やスタッフへの労いの意見が多く、回答者の経験や身体性でアンケート結果が異なるのだなあと思う。

本大会全般についての印象に関する 5 段階評価の結果を、平均と分散の幅を持たせたグラフとして示します（図 1）。会場、日程、大会論文集、ポスター、懇親会、HP からの登録や情報伝達の評価が良く、大会ポスターや HP を担当してた私としては嬉しい結果でした。開催地が長崎だったのが良い、懇親会での龍踊りが凄かったという意見が圧倒的で、会場のブリックホールは交通アクセスが良く、きれいで立派と大好

評でした。

逆に評価が悪かった（それでも中間点3以上ですが）項目は、テクニカルツアー、コーヒーサービスでした。私は会場の片付けをしていたのでテクニカルツアーにお供できませんでしたが、おそらく小さな水族館で期待外れだったのでしょうか？　世界最長老のコウテイペンギン「ぎん吉」を観れたら幸せと割り切ってくださいませ。コーヒーサービスについては、その存在すら知らなかった、お湯がぬるかった、散らかっていたらしいですが、国内の学会のコーヒーサービスはお粗末なセルフサービスが多いので、ある意味「正統的？」だったかもしれません。海外の学会のようにカフェテリアみたいな場所にウェイターがいる優雅なコーヒーサービスは今回は無理でした。コーヒーサービスの場所が狭いという意見を恐れていましたが、そのようなクレームはありませんでした。特に悪かった事柄には、セッションの割り振りが不適切、受付で長く待たされて不快、展示ブースが狭いなどの意見が多かった。また、大会論文集が重いのでCD-ROM化してほしい、液晶プロジェクターとノートパソコンの相性が悪いと接続に手間取って焦るので、備え付けのノートパソコンを置いて、発表データをコピーして使えるようにして欲しい、学会参加費＋懇親会費＋テクニカルツアー費を合わせると結構な金額になるのでもう少し安くして欲しいなどの要望もあった。

村上龍氏のドタキャンで、急遽お願いした原島先生の顔学の講演は、以前聴講された方も多かったせいで分散が大きくなっていますが、初めての方には大好評でした。

学会で一番メインの口頭発表や展示については概ね良い評価で、総合評価もほとんどの方が4で分散も非常に小さく、目的達成度（図2）も大いに達成されたが20%、まずまず達成されたが72%、合わせて90%以上の方が概ね目的を達成されたようです。昨年のアンケート結果と比較してみると、全体的に右寄り（良い方向）へシフトしているので、VR大会としては大成功に一歩近づいたのだと思いたいです。

来年の第7回大会への参加意志は、絶対参加するが20%（9ポイントアップ）、できるだけ参加したいが42%（24ポイントダウン）でした。やはり、異国情緒あふれる港町長崎に魅了された参加者が多かったので、アンケート結果が良かったんでしょうか？　次回大会もぜひともよろしくお願い致します。

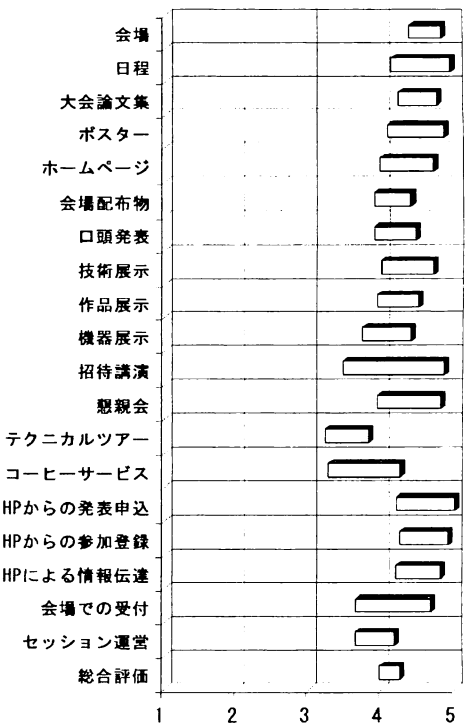

図1　大会でよかったもの（5段階評価）

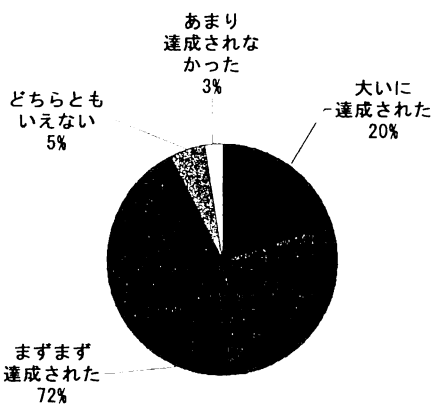

図2　参加目的の達成度

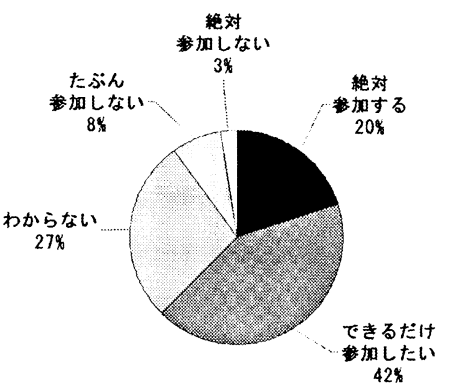

図3　第7回大会への参加